

第1回

市民会館の整備検討懇談会

令和元年 8 月 6 日

観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化振興室

目 次

1	市民会館の現状及び課題	・ ・ ・ 1
2	ホール関連市場の動向	・ ・ ・ 13
3	名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題	・ ・ ・ 17
4	市民会館の整備にかかる検討課題の整理	・ ・ ・ 26

1 市民会館の現状及び課題

1 市民会館の現状及び課題

(1) 施設立地環境

- ・名古屋圏第2位の乗降客数を誇る金山総合駅から400mの好立地
(1日あたりの乗降客数 約43.7万人)
- ・JR中央本線・東海道本線、名鉄名古屋本線・常滑線、地下鉄名城線・名港線の「金山」より徒歩約5分とアクセス良好
- ・地下鉄名城線・名港線「金山」より地下連絡通路で直結
- ・周辺には名フィルの練習施設でもある音楽プラザ等の文化芸術拠点が集積
- ・南側にはアスナル金山が位置し、周辺商店街やその他施設とともに地域の賑わいを形成しており、コンサートの公演前後を快適に過ごすためのカフェや飲食施設などが周辺に点在している
- ・古沢公園駐車場(241台)、アスナル金山駐車場(197台)など駐車施設も充実している



1 市民会館の現状及び課題

(2) 施設概要

① 市民会館の役割

- ・優れた文化芸術公演の鑑賞の場
- ・市民の文化活動・発表の場
- ・地域の賑わいを創出する場

(名古屋市文化振興計画2020)

② 沿革

- ・ 1950 (昭和25) 年
第5回国民大会 (愛知国体) に向け、現・市民会館用地に「金山体育館」を建設
- ・ 1968 (昭和43) 年
「金山体育館」の老朽化及び、熱田区六野に「名古屋市体育館」が整備されたことを機に、「金山体育館」を解体
- ・ 1972 (昭和47) 年
名古屋市の人口200万人突破を記念して、芸術文化の振興及び市民福祉の向上を目的に「名古屋市民会館」を整備
- ・ 1999 (平成11) 年
市民会館北側に「名古屋市音楽プラザ」を整備
- ・ 2007 (平成19) 年
ネーミングライツを導入

③ 建物概要

正式名称：名古屋市民会館 (日本特殊陶業市民会館)

開 館：昭和47 (1972) 年10月1日 (築46年経過)

住 所：中区金山一丁目5 番1号

施設構成：大ホール (フォレストホール 2,291席)

中ホール (ビレッジホール 1,146席)

舞台裏楽屋12室、有料地下楽屋16室

控室4室、リハーサル室2室、会議室3室

敷地面積：14,205㎡

建築面積：9,370㎡

延床面積：28,245㎡

構造：SRC造、一部RC造地上6階、地下2階、
塔屋1階建

駐車場：正面駐車場 28台 (主催者用)

音楽プラザ 69台、市営古沢公園 241台

年間来場者数：806,357人 (30年度)

大ホール 520,126人

中ホール 226,966人

リハーサル室 33,068人

会議室 26,197人

1 市民会館の現状及び課題

(2) 施設概要

④ 中ホール（ビレッジホール）

- ・客席 1,146席（車椅子席3席）
- ・舞台面積 1,061㎡（間口16m、奥行21m、高さ7.2m）
- ・用途 日本舞踏、民謡、演劇
- ・楽屋 5室：和室
- ・控室（床山・衣装室） 各2室：和室

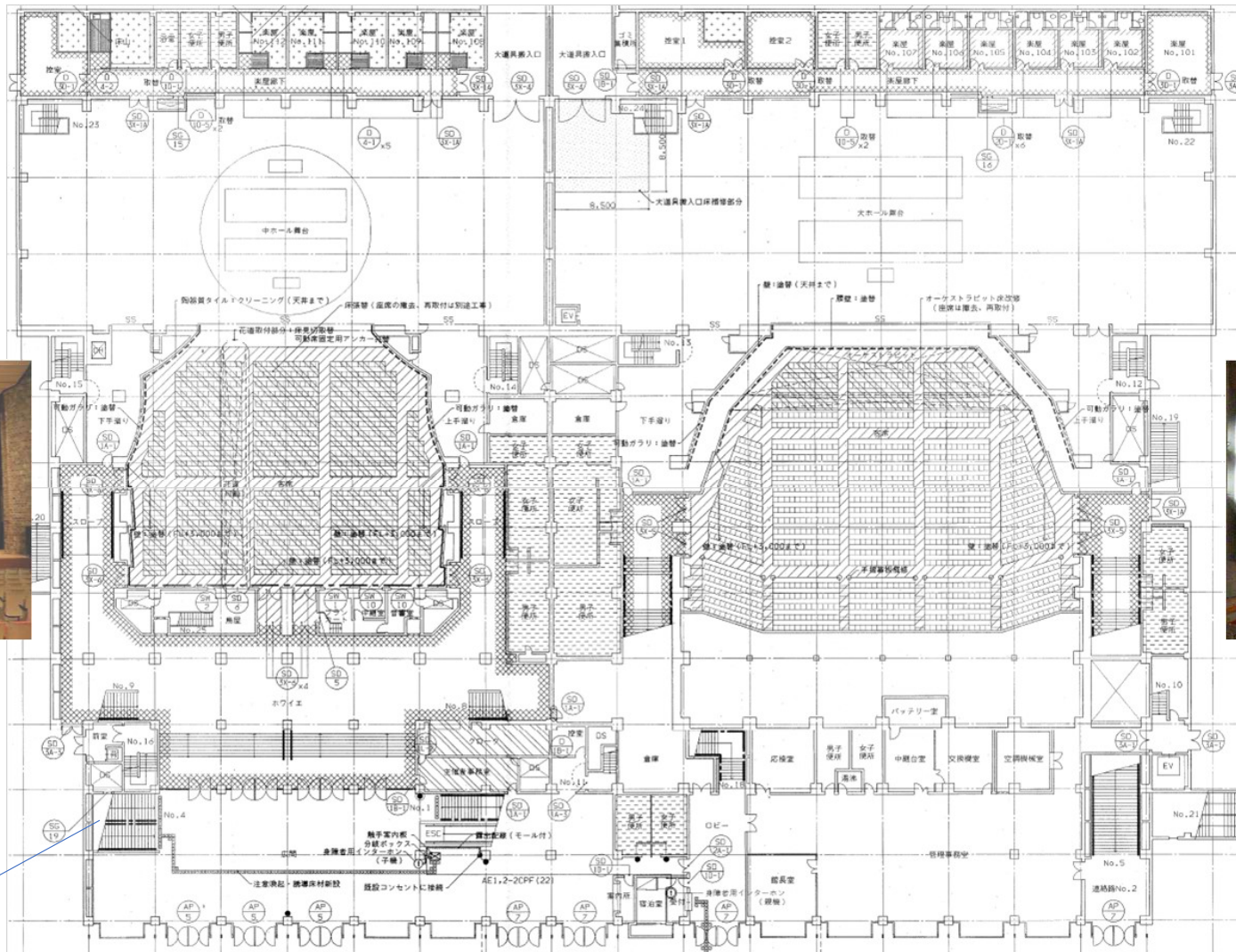
⑤ 大ホール（フォレストホール）

- ・客席 2,291席（車椅子席5席）
- ・舞台面積 1,373㎡（間口20m、奥行21m、高さ11.5m）
- ・用途 オーケストラ、オペラ、バレエ
- ・楽屋 7室：洋室
- ・控室（床山・衣装室） 各2室：洋室

至 金山駅



至 古沢公園
駐車場



地下通路

大津通側



1 市民会館の現状及び課題

(2) 施設概要

⑥ 諸室構成

階	室名		規模		利用率(30年度)	
					日数	単位数
3F	第1会議室		179㎡	90名	91.8%	68.0%
	第2会議室		64㎡	30名	97.1%	80.2%
	特別会議室		54㎡	20名	67.2%	41.7%
2F	レストラン 234㎡ (再オープンに向け準備中)			—	—	—
1F	舞台裏	楽屋101	48㎡	12名	大ホールの 附属施設	
		楽屋102～楽屋107	各20㎡	各2名		
		控室(床山)	30㎡	—		
		控室(衣装室)	50㎡	—		
	舞台裏	楽屋108～楽屋112	各23㎡	各2名	中ホールの 附属施設	
		控室(床山)	30㎡	—		
		控室(衣装室)	48㎡	—		
B1F	第1リハーサル室		151㎡	—	94.0%	70.1%
	第2リハーサル室		117㎡	—	91.1%	67.5%

階	室名		規模		階	室名		規模	
B1F	大ホール用	楽屋1	36㎡	19名	B1F	中ホール用	楽屋8	72㎡	34名
		楽屋2	72㎡	34名			楽屋9	36㎡	11名
		楽屋3	72㎡	29名			楽屋10	54㎡	23名
		楽屋4	72㎡	30名			楽屋11	54㎡	21名
		楽屋5	36㎡	20名			楽屋12	54㎡	24名
	兼用	楽屋6	36㎡	16名			楽屋13	54㎡	21名
		楽屋7	36㎡	15名			楽屋14	27㎡	12名
							楽屋15	36㎡	20名
							楽屋16	36㎡	20名



第1会議室



第2会議室



特別会議室



レストラン



第1リハーサル室



第2リハーサル室



楽屋1～5

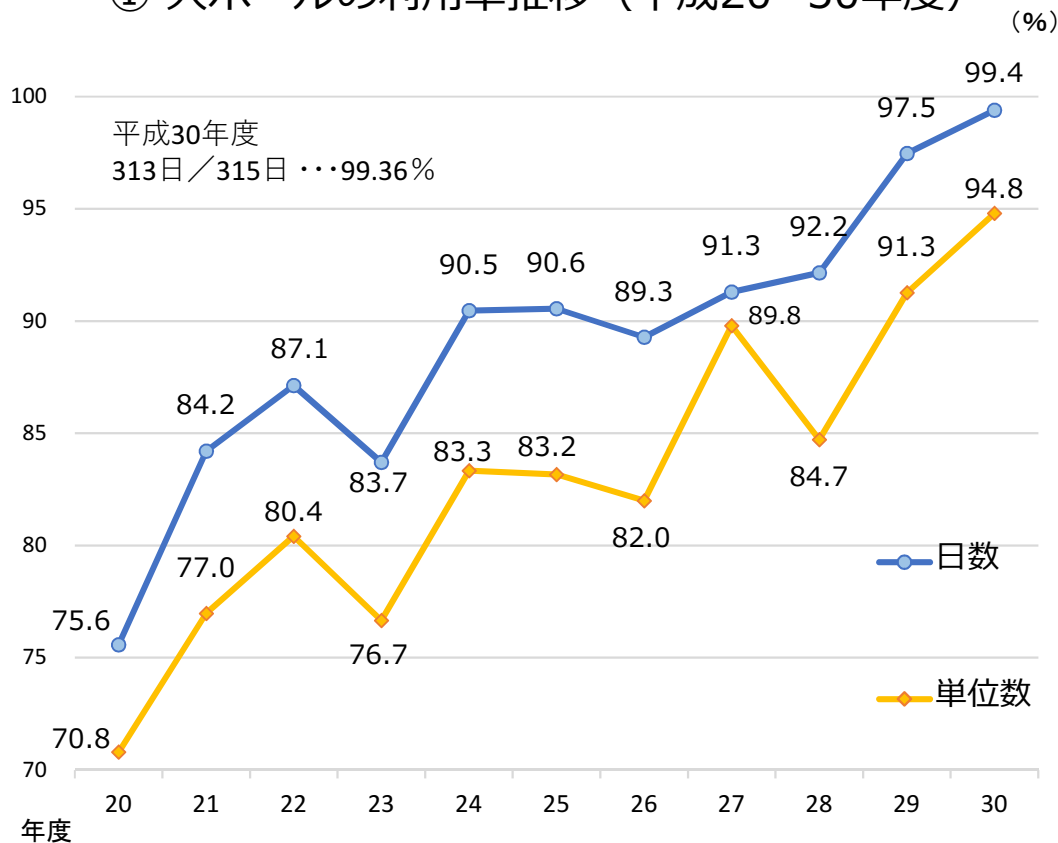


楽屋8～16

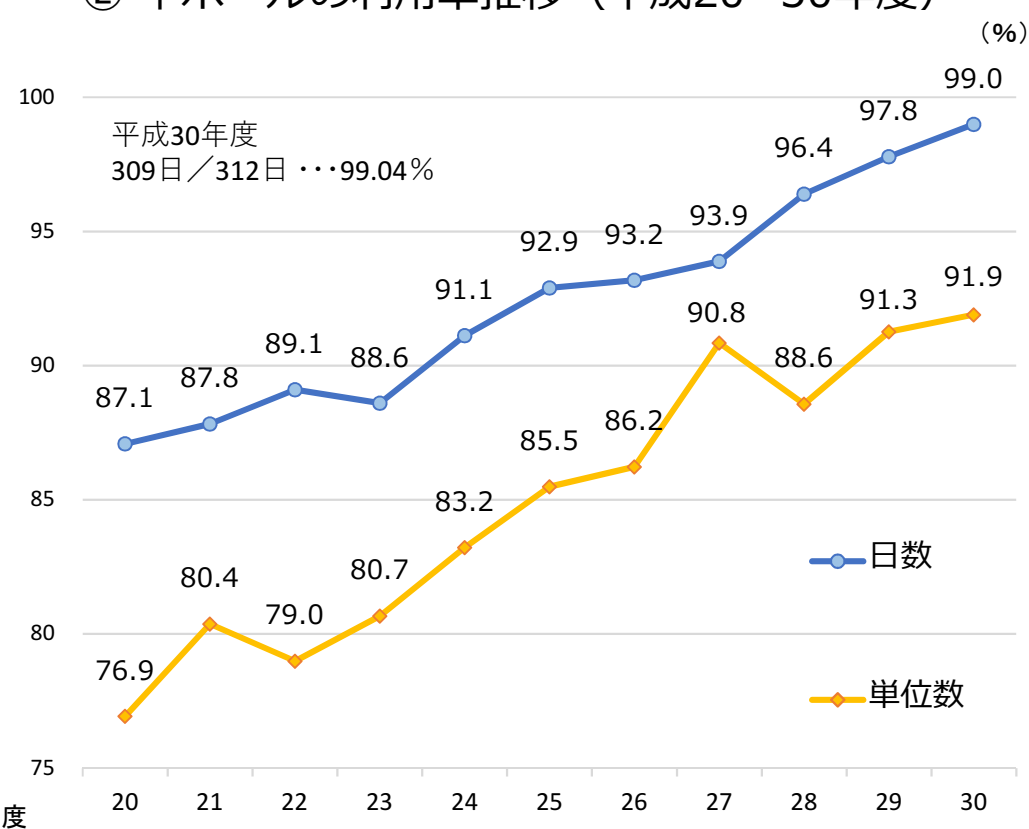
1 市民会館の現状及び課題

(3) 利用状況

① 大ホールの利用率推移（平成20～30年度）



② 中ホールの利用率推移（平成20～30年度）



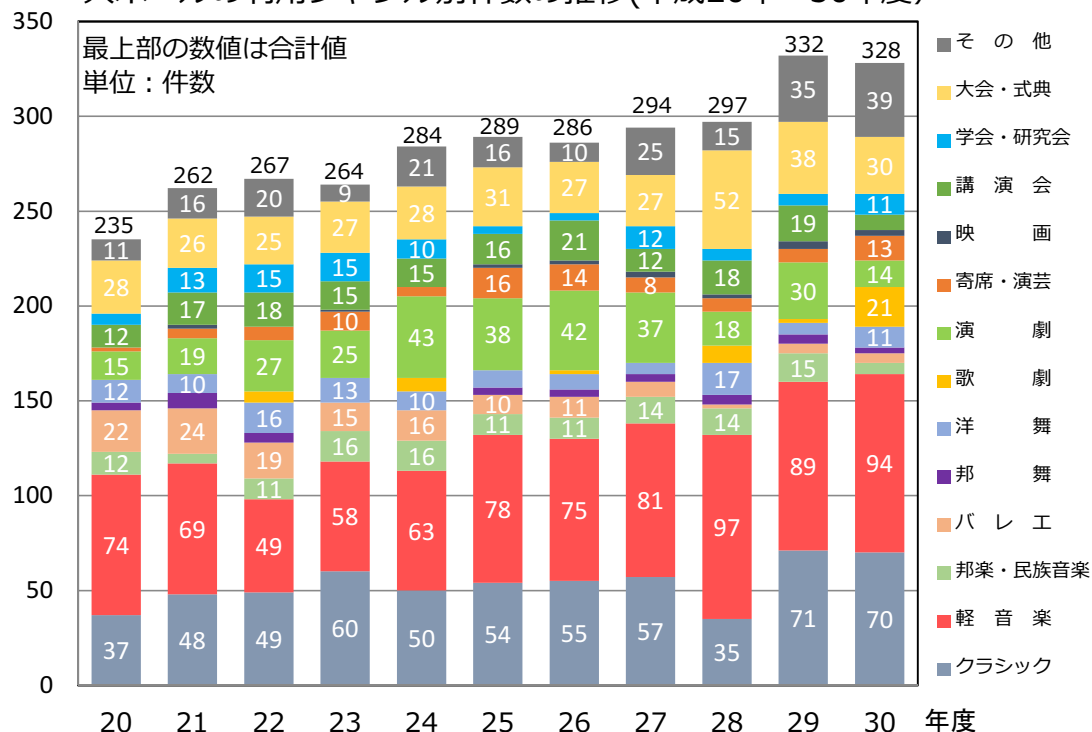
- ・平成20年に愛知厚生年金会館（1666席）、平成22年に愛知県勤労開館（1488席）が閉館したことをきっかけに、**大ホール、中ホールともに利用率は増加傾向にある。**
- ・平成29年から30年度にかけて、愛知県芸術劇場と公会堂の大規模改修による工事休館が重なったことにより、**平成30年度は大ホールで99.4%、中ホールで99.0%と利用率が高止まりしている。**
- ・ホールの休館は、月2回の施設点検や年2回の法令点検、年末年始の休館日を合わせて年間約50日しかなく、大ホールは315日のうち313日、中ホールは312日のうち309日が利用され、補修工事の日程確保が困難な状態。
- ・施設の**抽選倍率は大ホールが約 8 倍、中ホールが約 6 倍**と高く、本市は様々な面で機会損失の状態にある。

1 市民会館の現状及び課題

(3) 利用状況 (大ホール)

③ 利用ジャンル

大ホールの利用ジャンル別件数の推移(平成20年～30年度)



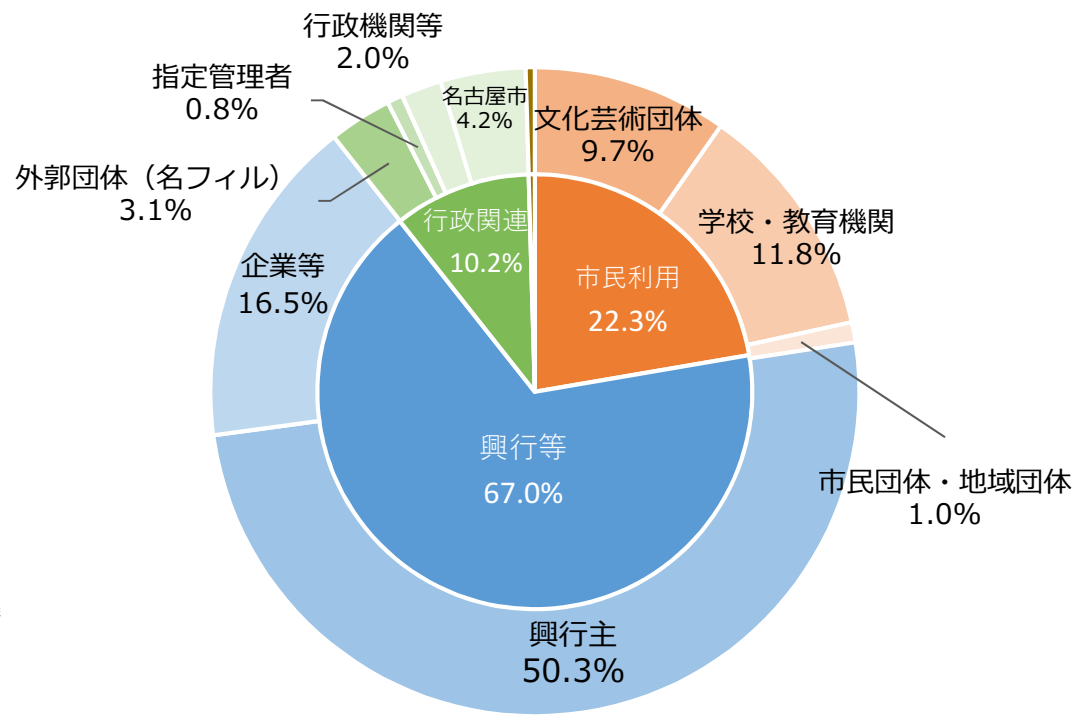
<利用件数>

- ・ 多少の増減はあるが年々増加し、平成30年度は328件である。
- ・ このうち文化芸術関連の公演や発表会が237件 (72.3%)。中でも「軽音楽」が94件 (28.7%)、「クラシック」が70件 (21.3%) と多く、音楽関係が全体の約半分を占める。

<推移>

- ・ 文化芸術関連以外の「大会・研究会」が増加傾向にあり、その利用件数は平成28年度には52件(17.5%) まで拡大している。

④ 利用主体 (平成28・29年度の累計)



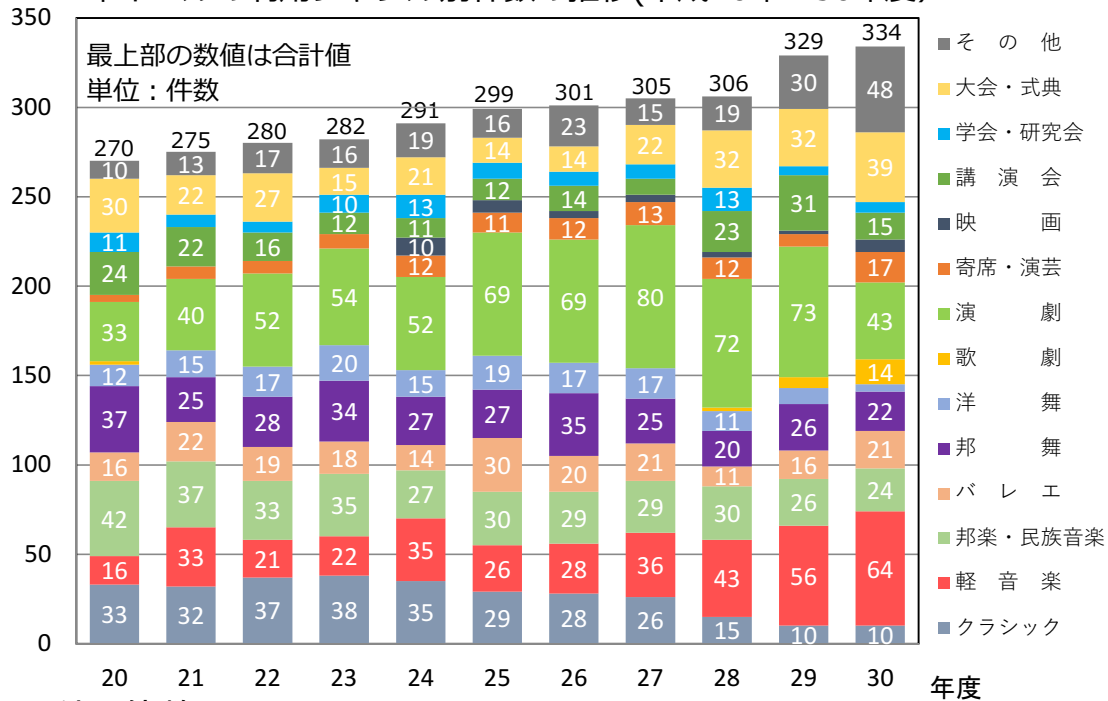
- ・ 「興行等」の利用が7割近くを占め、2割を「市民利用」、残る1割を「行政関連」が占めている。
- ・ 「興行等」の内訳は、地元プロモーターやテレビ局等による商業的公演が大半を占め、「市民利用」は「学校・教育機関」や「文化芸術団体」による発表会等の利用が多い。
- ・ 「行政関連」では、市の外郭団体である名フィルの定期公演のほか、市教育委員会の主催事業などが数多く行われている。

1 市民会館の現状及び課題

(3) 利用状況 (中ホール)

⑤ 利用ジャンル

中ホールの利用ジャンル別件数の推移(平成20年～30年度)



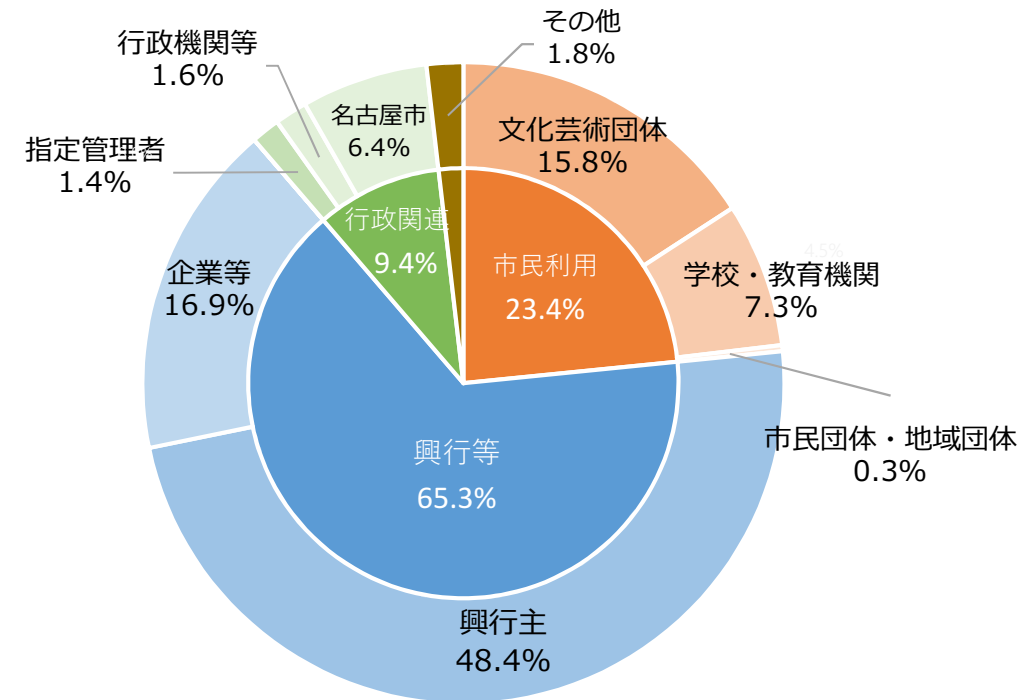
<利用件数>

- ・年間利用件数は年々増加しており、平成30年度は334件だった。
- ・このうち文化芸術関連の公演や発表会は219件(65.6%)である。
- ・中でも「軽音楽」は64件(19.2%)、「演劇」が43件(12.9%)と多く、全体の30%以上を占める。
- ・舞台設備の違いから大ホールに比べ「邦舞」の利用件数が多い。

<推移>

- ・大ホール同様、文化芸術以外の「大会・研究会」が増加傾向にあり、利用件数は平成30年度は39件(11.7%)となっている。
- ・近年「演劇」が増加傾向で平成29年度は平成20年度の2倍以上。

⑥ 利用主体 (平成28・29年度の累計)



- ・「興行等」の割合が6割以上を占め2割強を「市民利用」、残る1割を「行政関連」と続く。
- ・大ホールに較べて「文化芸術団体」が占める割合が高く、バレエの発表や花道を活用した邦舞・邦楽などの公演が多く行われている。
- ・「行政関連」では、名古屋市教育委員会の主催事業や行政機関による説明会などが多く行われている。

1 市民会館の現状及び課題

(4) 施設維持管理および施設運営面での課題

① 施設の老朽化

- ・開業後46年が経過し、劇場の法定耐用年数（41年）も超過している。
- ・平成7・8年度の劣化状況調査では、施設整備を10年延命させるための改修費として113億円以上と試算されたが、そのうち、最も重要度が高い一部設備のみ平成12～13年度に改修工事（約28.1億円）を実施したのみ。その後、20年近くが経過し老朽化が著しく、故障による長期休館はいつ発生しても不思議ではない状態。
- ・特に、電源・空調・給排水管など施設の基幹部分の故障や不具合が多発している。

<故障・不具合の事例>

建 築 : 屋上防水劣化、雨漏り、外壁タイルの剥離
設 備 : 給排水管、非常用発電設備、
始動用電源装置の劣化 等

空 調 : 中央監視装置の無停電電源の能力低下
舞台機構 : 幕類劣化、防災機能低下
舞台照明 : 配線の劣化、熱による灯具の変形劣化等

<給排水管の老朽化による漏水等のトラブル事例>



② 天井脱落防止対策

大ホール・中ホールともに特定天井（脱落によって重大な危害を生ずるおそれがある天井）に該当。改修には工事費約10.6億円、工期 18カ月以上が必要と試算。

1 市民会館の現状及び課題

(4) 施設維持管理および施設運営面での課題

③ 来場者・利用者の利便性及び快適性



地下鉄連絡通路



地下リハーサル室への階段



常時混雑する女子トイレ



手狭な搬出入スペース

<不十分なバリアフリー対策>

- ・ 階段のみの来場者動線が多く、足が不自由な方にとって来場や館内移動が困難な状態。
- ・ 出演者らが利用するバックヤード・楽屋等の動線にも階段が多く、通路幅も十分に確保できていない。
- ・ 施設の構造上の問題で、バリアフリー対応には限界があり、スタッフ等の介添なしに客席までたどり着くことができない。

<快適性>

- ・ トイレ数が不足していることに加え、男女比が利用実態とかい離している。幕間にはトイレ前に行列が発生。
- ・ 搬出入スペースが狭いうえ、深夜・早朝の搬出入時は周辺住民への騒音等の配慮が必要。
- ・ 楽屋の規模（数・面積）が不足していることに加え、配置された階が分れているため、移動に苦労。

1 市民会館の現状及び課題

(4) 施設維持管理および施設運営面での課題

④ 市民会館における適正なトイレ数の試算結果

市民会館の座席規模をもとに、空気調和・衛生工学会「衛生器具の適正個数算定法」から約80%の人が許容し得る最大待ち時間を前提に試算した結果、女性トイレは大ホールで27個不足し、中ホールで10個不足している

		フォレストホール（大ホール）		
現 状		男性・大	男性・小	女性
	1F 1542席	7	18	25
	2F 290席	3	4	3
	3F 232席	3	4	3
	4F 227席	3	4	3
	合計	16	30	34

		ビレッジホール（中ホール）		
		男性・大	男性・小	女性
1F	842席	4	7	15
2F	304席	2	6	6
合計		6	13	21

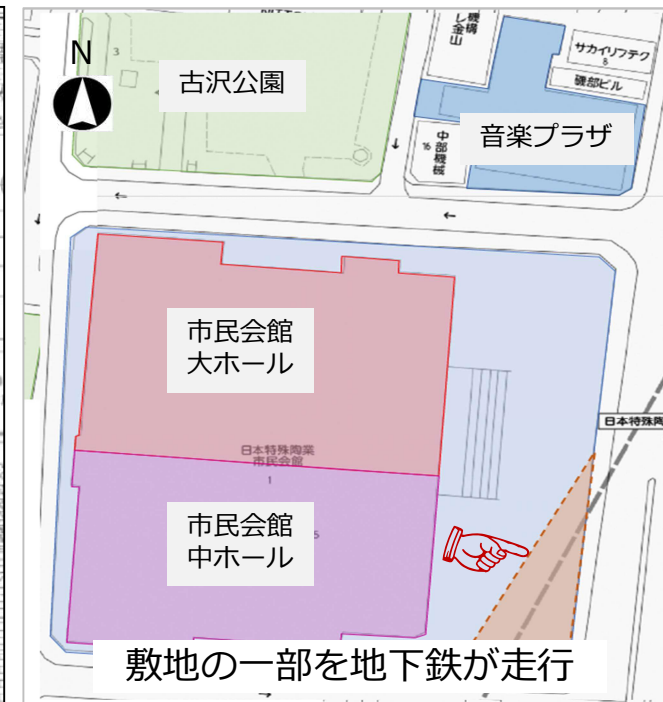
		フォレストホール（大ホール）		
試算結果		男性・大	男性・小	女性
	1F 1542席	14	14	40
	2F 290席	2	4	8
	3F 232席	2	4	7
	4F 227席	2	4	6
	合計	20	26	61
差引		▲ 4	4	▲ 27

		ビレッジホール（中ホール）		
		男性・大	男性・小	女性
1F	842席	7	9	22
2F	304席	3	5	9
合計		10	14	31
差引		▲ 4	▲ 1	▲ 10

1 市民会館の現状及び課題

(4) 施設維持管理および施設運営面での課題

④ 遮音性能

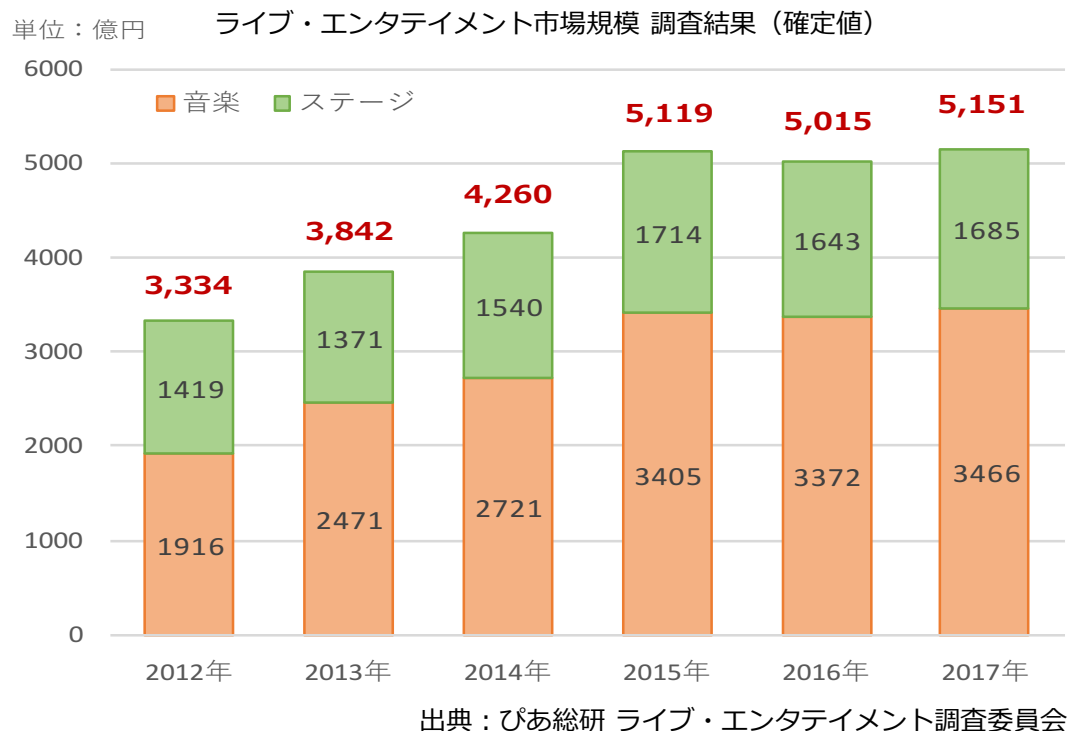


- 大ホール と 中ホールが壁一枚で隣接しており、相互の音・振動が伝播する
 - ・ 和太鼓や大音量のロックコンサートを開催する場合には、ホール間の利用調整が必要。
 - ・ 平成8年12月に実施した名古屋市民会館の音響性能調査で確認済
- 敷地内に地下鉄名城線が通っており、走行時の振動音が舞台上や客席に伝わる
 - ・ 舞台下の奈落部分で走行音が増幅されるため、演奏者だけでなく、舞台に近い一部の客席でも走行音を確認できるため、クラシック音楽では特に敬遠される。
- 対応策 現行の施設構造のままでは、問題解決は困難
 - ・ 近年の劇場設計ではホール全体を「浮き構造」にし、外部からの音響等の干渉を完全に遮断している

2 ホール関連市場の動向

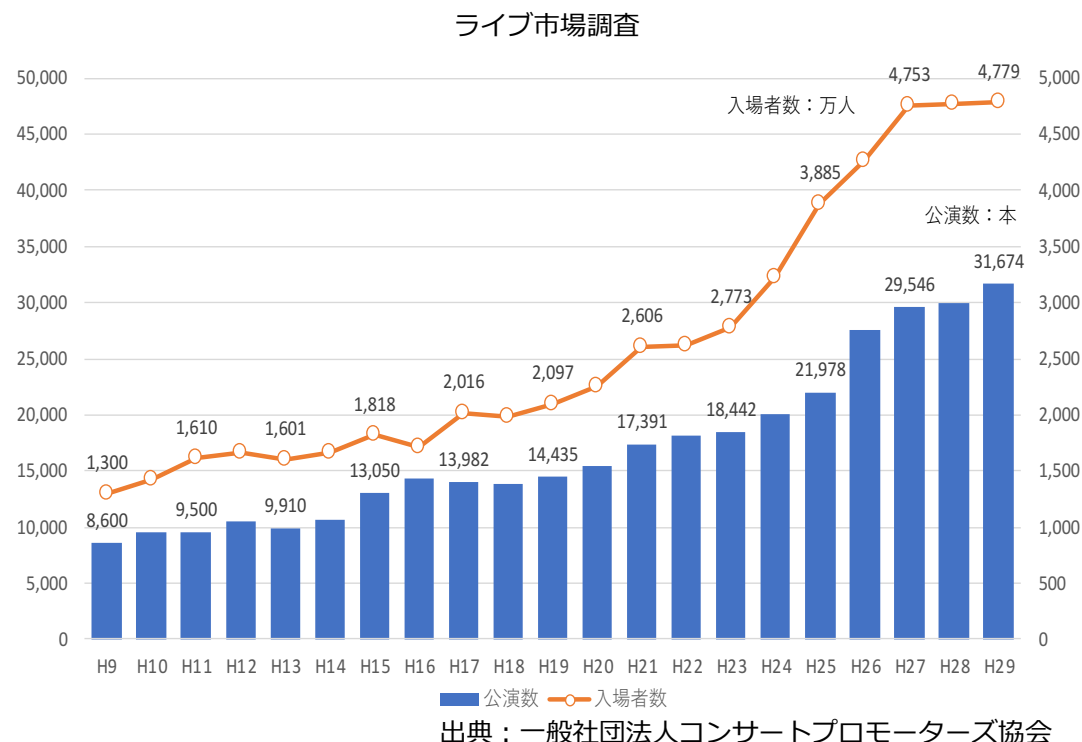
2 ホール関連市場の動向

(1) 全国のライブ・ステージ市場傾向



- ・ 2017(平成29)年の音楽・ステージの市場規模は過去最高の5,151億円を記録し、5年間で1.5倍に増加
- ・ 2016(平成28)年は全国的に大規模ライブ会場の改修が重なりマイナスとなった
- ・ 上記の要因として、楽曲の定額配信サービスの拡大や、CD等の音楽媒体の小売市場が衰退がある中、チケット収入や物販などが見込める音楽・ステージ市場に収益の主軸を置くアーティスト等が増加したことが含まれる

(2) ライブ市場における公演数・入場者数の推移

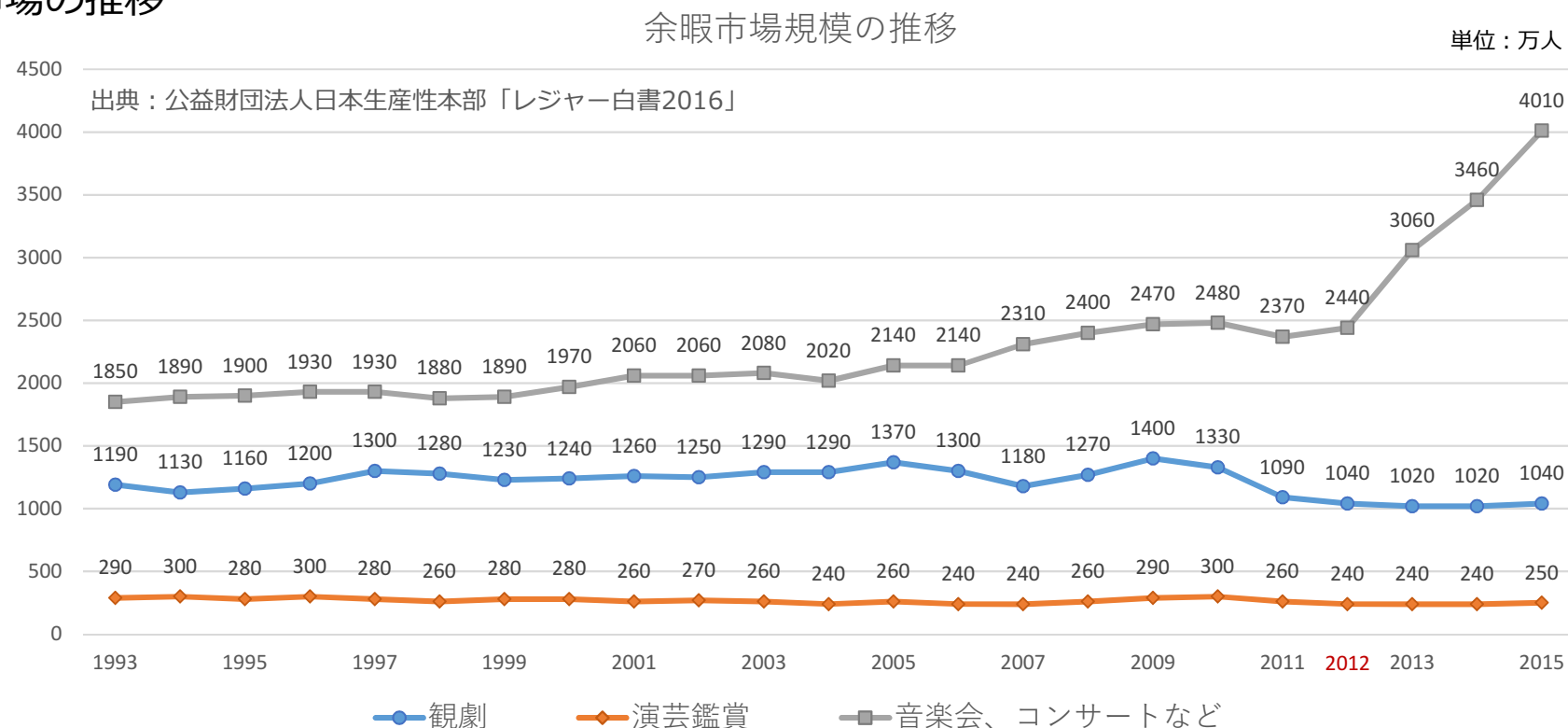


- ・ 公演数・入場者数ともに大幅な増加傾向にあり、10年前の2倍以上になっている
- ・ 上記の要因には、近年、ドームや野外フェス等の大規模会場における公演の増加が含まれる

* ライブ・エンタテインメント市場規模 = 音楽コンサート等でのチケット推計販売額合計と定義

2 ホール関連市場の動向

(3) 余暇市場の推移



性別・年代別
参加率（2015年）

	男 性								女 性							
	男性計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	女性計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
観劇（テレビは除く）	5.6	5.2	5.6	1.5	6.0	7.1	5.7	8.6	14.2	15.4	11.8	10.1	12.5	16.0	15.8	19.1
演芸鑑賞（テレビは除く）	3.9	6.1	2.8	2.2	2.7	3.8	3.0	9.7	4.9	12.0	3.6	4.0	3.2	3.9	5.6	6.0
音楽会、コンサートなど	17.7	17.4	16.3	10.3	16.9	15.8	21.3	28.0	30.2	45.3	31.8	25.4	25.0	31.5	25.0	39.1

- ・「音楽会、コンサートなど」の市場規模は、2012(平成24)年を境に大きな伸びを見せ、3年間で約1.7倍と大きく拡大している。近年、スタジアムや屋外などで開催される大規模コンサートの増加と、それに伴うチケット単価の上昇が音楽会やコンサート等ライブエンタテインメント市場を大きく牽引している。音楽ソフトの売上げ低迷によりプロダクションはライブコンサートの強化に動いており、グッズ販売も拡大するなどコンサートが積極的に展開されている。

2 ホール関連市場の動向

(4) 余暇活動への参加希望

余暇への参加希望率を見ると「音楽会、コンサート等」は全体で11位。性別では、男性17位に対して**女性は9位と高い**
余暇活動への参加希望率上位20種（2015年）

全体			男性			女性		
順位	種目	参加率	順位	種目	参加率	順位	種目	参加率
1	国内観光旅行	71.3	1	国内観光旅行	65.7	1	国内観光旅行	76.7
2	読書	43.6	2	ドライブ	43.8	2	読書	46.4
3	ドライブ	42	3	読書	38.6	3	動物園、水族館 等	46
4	動物園、水族館 等	40.8	4	温浴施設	38	4	温浴施設	42.8
5	温浴施設	40.5	5	動物園、水族館 等	35.3	5	海外旅行	41.7
6	海外旅行	38.2	6	ウォーキング	34.6	6	ドライブ	40.2
7	外食	36.3	7	海外旅行	34.5	7	外食	40.1
8	ウォーキング	36.3	8	バーベキュー	32.7	8	ショッピングセンター等	39.5
9	映画	35.3	9	外食	32.3	9	音楽会・コンサート等	38.6
10	ショッピングセンター等	34.1	10	映画	32.2	10	映画	38.2
11	音楽会、コンサート等	31.1	11	宝くじ	29.3	11	ウォーキング	38
12	バーベキュー	30.7	12	ショッピングセンター等	28.5	12	ウィンドウショッピング	34.9
13	音楽鑑賞	28.4	13	音楽鑑賞	28.1	13	遊園地	33.5
14	遊園地	28.2	14	ジョギング・マラソン	26.8	14	カラオケ	30.6
15	宝くじ	27.9	15	ピクニック、ハイキング等	25.6	15	園芸・庭いじり	29.9
16	ピクニック、ハイキング等	27.3	16	スポーツ観戦	24.1	16	バーベキュー	28.8
17	カラオケ	27.0	17	音楽会、コンサート等	23.3	16	ピクニック、ハイキング等	28.8
18	園芸、庭いじり	26.7	17	カラオケ	23.3	18	音楽鑑賞	28.6
19	ウィンドウショッピング	26.0	17	園芸、庭いじり	23.3	19	催し物、博覧会	28.4
20	催し物、博覧会	23.5	20	遊園地	22.7	19	ファッション	28.4

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

（1）名古屋および周辺市ホールの概要

① 本市のおもなホールの立地状況

名古屋市が所有管理するホールは23施設あり、全市を対象とした施設のほかに中区を除く各区に文化小劇場が整備されている。座席数が1000席以上のホールは、公立・民間あわせて7施設で、栄・伏見エリアと金山エリアに集積している。



	施設名	座席数	開館年	利用率※
1	公会堂	1986	昭和5年	76.8
2	市民会館 大ホール	2291	昭和47年	99.4
	中ホール	1146		99.0
3	芸術創造センター	640	昭和58年	98.9
4	青少年文化センター	724	平成8年	96.5
5	中村文化小劇場	350	平成3年	100.0
6	南 文化小劇場	394	平成4年	100.0
7	西 文化小劇場	346	平成6年	100.0
8	港 文化小劇場	350	平成8年	86.4
9	天白文化小劇場	350	平成9年	92.5
10	名東文化小劇場	356	平成10年	95.1
11	守山文化小劇場	400	平成11年	88.1
12	北 文化小劇場	237	平成12年	90.7
13	緑 文化小劇場	446	平成13年	94.0
14	東 文化小劇場	349	平成13年	95.0
15	熱田文化小劇場	352	平成13年	96.6
16	千種文化小劇場	251	平成14年	88.2
17	中川文化小劇場	446	平成14年	92.8
18	瑞穂文化小劇場	349	平成27年	85.6
19	昭和文文化小劇場	300	平成28年	93.9
20	能楽堂	630	平成9年	73.4
21	国際会議場 (センチュリーホール)	3000	平成2年	93.2
22	教育センター(講堂)	864	昭和56年	
23	中区役所ホール	507	平成3年	

	施設名	座席数	開館年
A	愛知県芸術劇場 大ホール	2476	平成4年
	コンサートホール	1796	
B	愛知県産業労働センタ(ウィंकあいち)	801	平成21年
C	愛知県女性総合センター(ウィルあいち)	800	平成8年
	施設名	座席数	開館年
D	御園座	1292	平成30年
E	三井住友海上しらかわホール	693	平成6年
F	電気文化会館 (コンサートホール)	395	昭和59年
G	中電ホール	421	昭和38年
H	デザインホール	500	平成4年

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

(1) 名古屋市および周辺市ホールの概要

② 周辺市の主なホールの立地状況

愛知県内（名古屋市内を除く）にある1000席以上のホールは30施設あり、尾張地区・三河地区の鉄道沿線に広く整備されている。その内、客席が1500席以上のホールは6施設のみで栄から30分程度で行けるのは刈谷のみ。

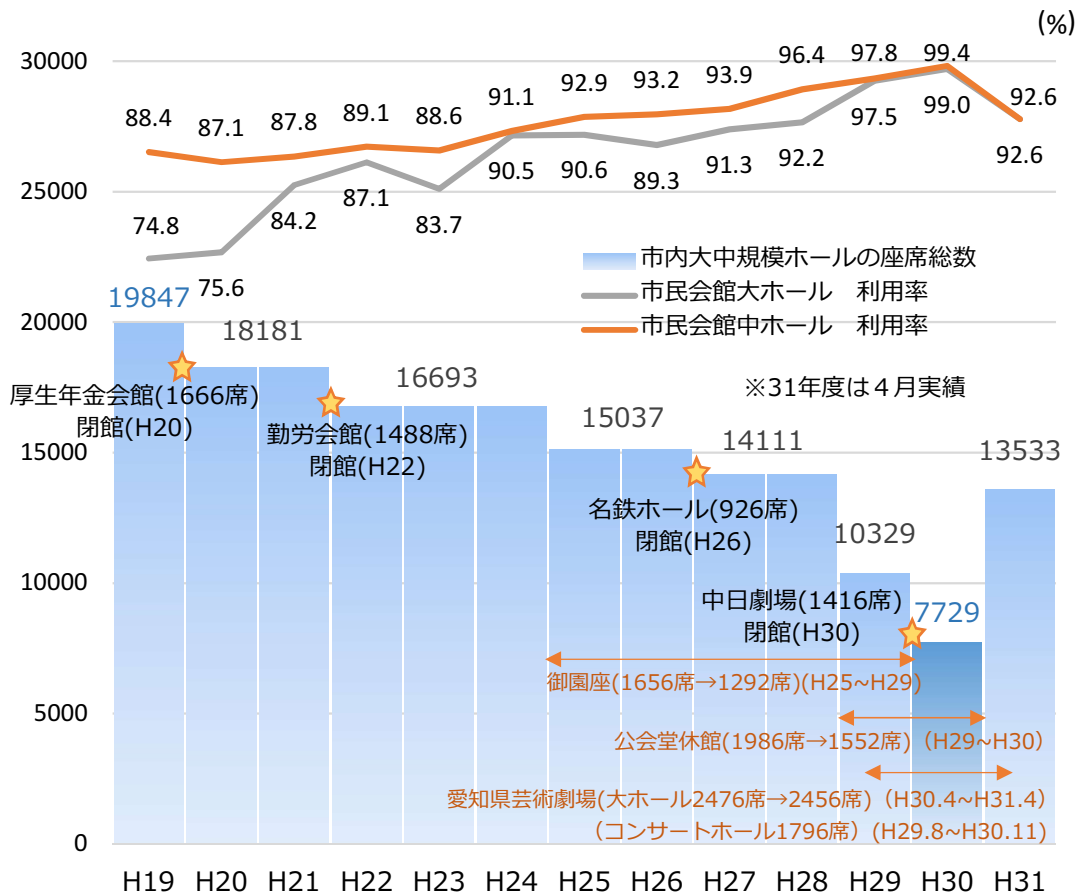


	施設名	座席数	開館年
1	豊田市民文化会館	1708	昭和56年
2	蒲郡市民会館	1598	昭和48年
3	一宮市民会館	1588	昭和49年
4	岡崎市民会館	1588	昭和42年
5	刈谷市総合文化センター	1541	平成22年
6	瀬戸市文化センター	1504	昭和57年
7	知立市文化会館	1469	平成12年
8	アイプラザ豊橋	1469	昭和51年
9	江南市民文化会館	1400	昭和59年
10	碧南市民文化会館	1400	昭和54年
11	小牧市市民会館	1334	昭和46年
12	春日井市民会館	1334	昭和41年
13	豊田市コンサートホール	1328	平成10年
14	豊川市文化会館	1328	昭和53年
15	稲沢市民会館	1304	平成7年
16	半田市福祉文化会館	1300	昭和63年
17	日進市民会館	1300	平成元年
18	犬山市民文化会館	1230	昭和57年
19	尾張旭市文化会館	1220	昭和56年
20	津島市文化会館	1217	平成9年
21	みよし市勤労文化会館	1217	平成5年
22	西尾市文化会館	1217	昭和55年
23	安城市民会館	1200	昭和47年
24	常滑市民文化会館	1181	昭和58年
25	岡崎市竜美丘会館	1181	昭和55年
26	ライフポートとよはし	1104	平成6年
27	飛島村中央公民館	1092	昭和57年
28	東海市芸術劇場	1021	平成27年
29	幸田町民会館	1010	平成8年
30	知多市勤労文化会館	1000	昭和60年

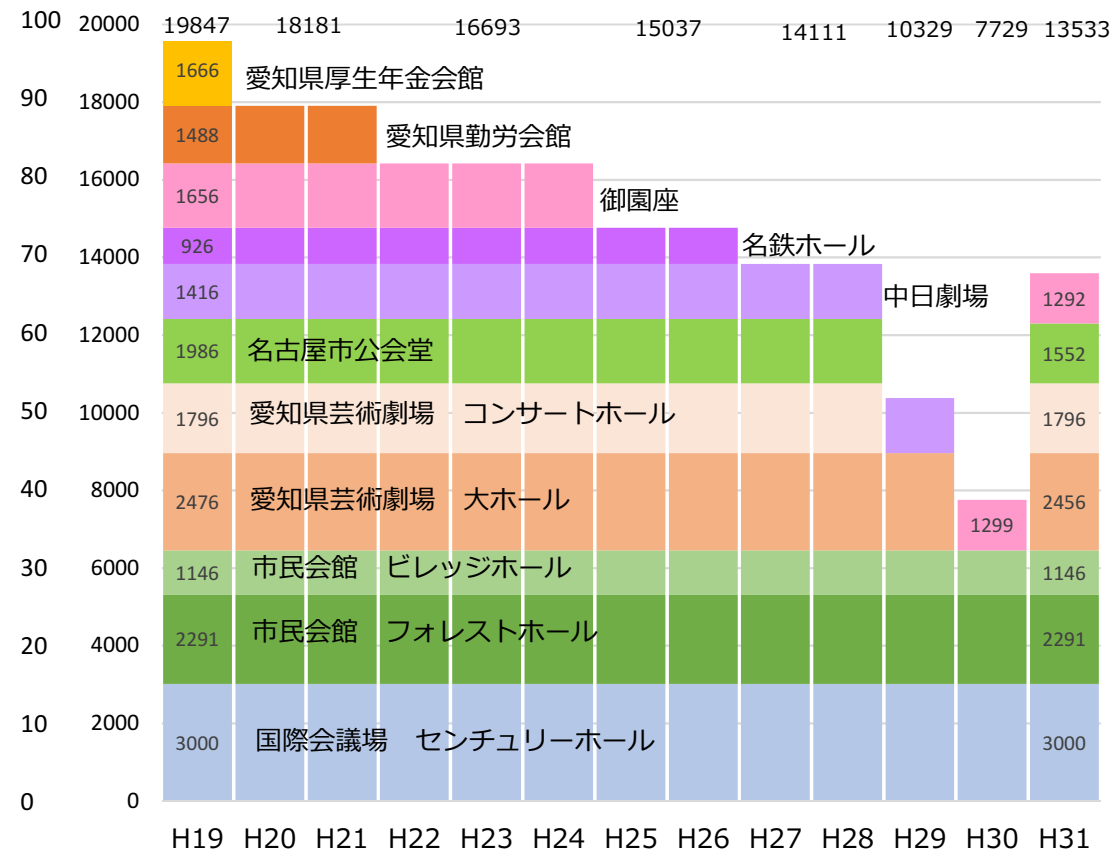
3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

(2) 名古屋市および周辺市ホールの現状

① 市内の大中規模ホールの総座席数と市民会館利用率の推移



② 市内の大中規模ホールの総座席数の推移



- ・近年、厚生年金会館(国)、勤労会館(県)、名鉄ホール(民間)、中日劇場(民間)の4施設が閉館し、市内の大・中規模ホールの座席総数は大きく減少している。平成30年度は、平成19年度当時と比べ、4割弱まで減少した。
- ・また、平成29年度から30年度にかけて、名古屋市公会堂および愛知県芸術劇場の改修工事が重なった。
- ・座席総数の減少と反比例して、市民会館を始め市内主要ホールの利用率は上昇しており、近年は高止まりの傾向にある。
- ・平成31(令和元)年度4月末には名古屋市公会堂および愛知県芸術劇場の改修工事が完了し、こうした状況はいくらか緩和したもの、令和元年における市民会館の利用申込状況を見ると、引き続き9割以上の高い水準が続くことが予想される。

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

(2) 名古屋市および周辺市ホールの現状

③ 名古屋市内のホール不足の影響（受付状況）

市内の大中規模ホールの申込み受付時期と条件（一般利用）

抽選 申込日	名古屋国際会議場 センチュリーホール (3000席)	愛知県芸術劇場 大ホール (2476席) コンサートホール (1796席)	名古屋市民会館 大ホール (2291席) 中ホール (1146席)	名古屋市公会堂 大ホール (1986席)	芸術創造センター (640席)	青少年文化センター (724席)
随時受付	国際会議で使用する場合					
48ヶ月前	↓ 全国的な会議で 全施設を使用する場合	(優先申し込み) 特に優れた舞台芸術公演 長期の準備期間を要するもの				
36ヶ月前		↓				
24ヶ月前	↓ 全国的な会議で 一部施設のみを使用する場合、 又は目的を問わず 全施設を使用する場合	↓ 全日3日以上 の連続利用（大ホール）	↓ 全国的な規模の行事の場合 全日2日以上連続利用の場合			
13ヶ月前	↓ 【制約条件なし】	↓ 【制約条件なし】	↓ 【制約条件なし】		芸術文化活動で本市域を 活動の基盤とする個人や団体が 自ら企画・主催・出演する場合	青少年自ら使用する場合、 青少年のために使用する場合
12ヶ月前		↓ 【制約条件なし】		【制約条件なし】	↓ 【制約条件なし】	↓ 芸術文化活動の場合
11ヶ月前					↓ 利用率94.1%	
10ヶ月前						↓ 【制約条件なし】
9ヶ月前						↓ 利用率92.6%

- ・ ホール不足のため、利用者は会場の確保を優先し、受付時期の早い会場に申込みが集中。
- ・ 利用実態より大きなホールにまで申し込むなど、施設の設置目的と異なる利用の仕方が増加。

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

(2) 名古屋市および周辺市ホールの現状

④ 名古屋市内のホール不足の影響（ホール需要の流動）

全国的にコンサート・イベントの興行需要が増加
ホールに対するプロモーター・文化芸術団体・市民・企業等の需要が増大

※市民会館の施設利用者へのヒアリング調査
(平成30年実施)より作成

※ 利用率はH29年度実績

※名古屋市以外が所管する文化施設に
ついては利用率の記載を割愛しております。

1 名古屋市内の大中規模施設に需要が集中

市内主要ホール

閉館/休館

愛知県勤労会館

1488席 2010年閉館

愛知厚生年金会館

1666席 2008年閉館

愛知県産業労働センター

(ウインクあいち) 大ホール801席

名古屋市民会館

大ホール 2291席 利用率98%
中ホール 1146席 利用率98%

愛知県 芸術文化センター

大ホール 2476席
コンサートホール 1796席

名古屋市国際会議場

センチュリーホール 3000席 利用率91%

名古屋市公会堂

1986席 (改修後1552席) 利用率77%

× 非常に高い利用率で予約困難
地元の需要に応えられない

× 高い利用率で予約困難
× 2500席は大きすぎて使いづらい
△ コンサートホールはクラシック
専用で汎用性に欠ける

× 大規模のため集客力ある演者限定
△ 学会・国際会議を優先

× コンサート等の場合、座席数が
足りない

予約不可

開催断念

2 周辺市の好立地施設に需要拡大

市外ホール① (名駅20分圏内、 2路線利用可)

刈谷市総合文化センター

メインホール 1541席

東海市芸術劇場

大ホール 1025席

× 高い利用率で予約困難
× 名古屋のプロモーターを抑制傾向

× 高い利用率で予約困難

予約不可

開催断念

3 さらに代替施設へ

市外ホール② (名駅30分～)

知立市文化会館

1004席

知多市勤労会館

1005席

日進市民会館

1010席

瀬戸市文化センター

1504席

稲沢市民会館

1304席

名古屋市内の文化芸術団体が周辺市の劇場を利用するケースは少ない

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

(2) 名古屋市および周辺市ホールの現状

⑤ 名古屋市内のホール不足がもたらす本市文化芸術関連施策上の課題整理

<市民が文化芸術を鑑賞する機会の損失>

- ・公演会場となるホールを確保できないため、名古屋公演を断念せざるを得ない興行主が数多く発生。
- ・結果として**市民の鑑賞機会が失われる**ため、劇場離れが進展するといった悪循環が危惧される。

<文化芸術活動の縮小・衰退>

- ・施設利用申込みの競争倍率が高騰しており、地元の文化芸術団体は発表の場の確保に頭を悩ませている。
- ・発表の機会を確保できないということは、**文化芸術活動の存続自体を危うくする危険性**がある。

<施設の設置目的と実態のかい離>

- ・施設の設置目的と異なる利用形態が増加しており、文化芸術活動にしわ寄せがきている
- ・受付方法の見直しなど、**施設の運用方法の見直しが必要**

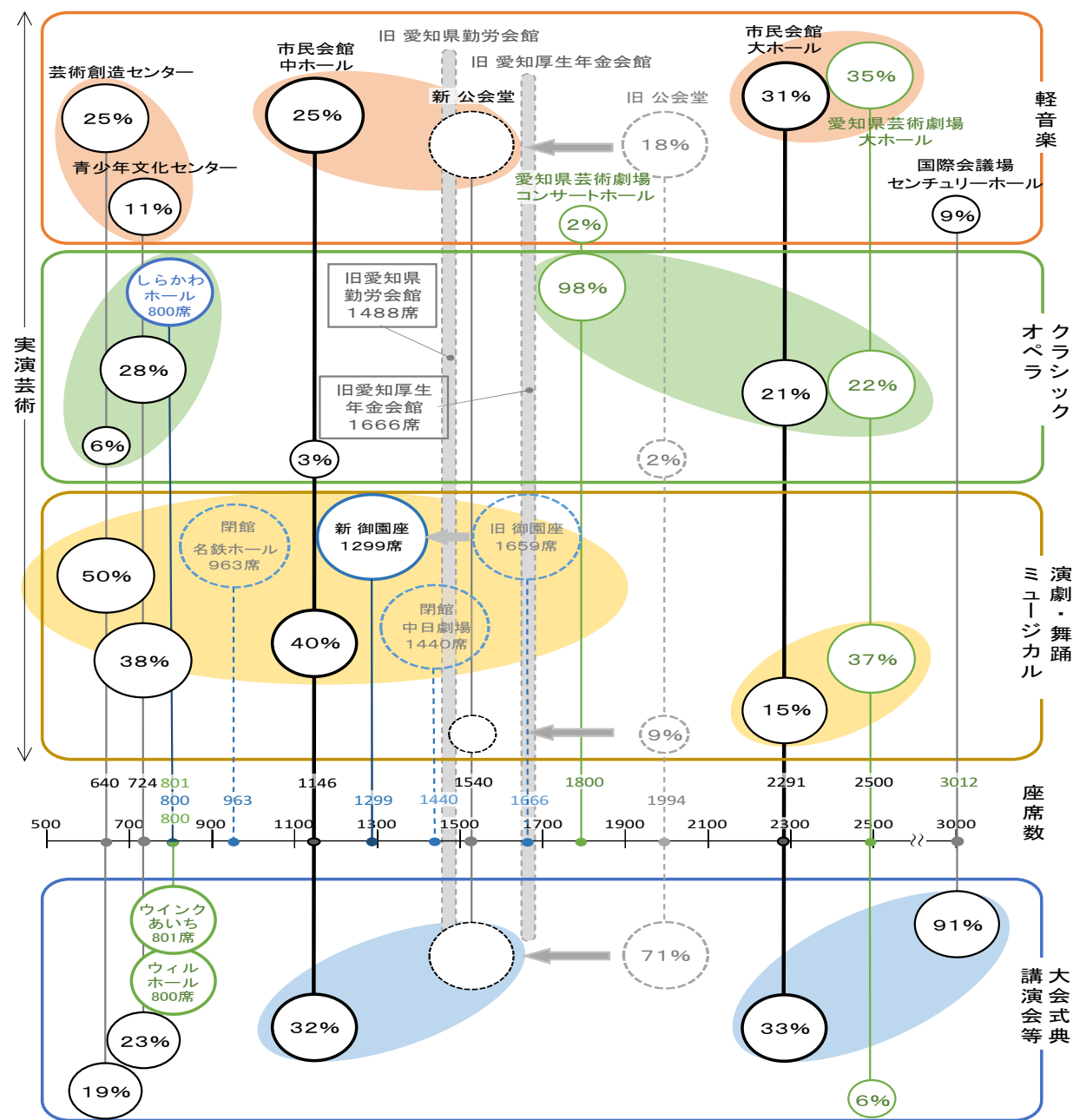
※「名古屋飛ばし」について

- ・海外著名アーティストの大規模コンサートを名古屋で開催するか検討された際に、高額チケットや集客の問題で実現は難しいと判断された際に「名古屋飛ばし」という言葉が使われことがある。しかし、現在の状況は、プロモーターも名古屋で開催したいのに、会場が確保できないため止むを得ず名古屋公演を断念しているものであり、本来の「名古屋飛ばし」とは異なる状況にあるといえる。

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

(3) 名古屋市内のホールのジャンル別充足状況

名古屋市の大・中規模ホールの主なジャンル別の利用状況（固定席ホールのみ）



※円内の%は平成29年度実績
ただし、公会堂のみ工事休館のため28年度実績

※市の施設のジャンルは指定管理者から報告された事業実績を集計

※県の施設のジャンルは県作成の「事業報告書」から

※民間及び閉館した施設のジャンルは「文化施設将来構想基礎調査（平成17年3月）」から

3 名古屋市および周辺市におけるホールの現状と課題

(4) 市民ニーズについて

名古屋市文化施設への市民ニーズ（平成29年ネットモニターアンケート）

名古屋市の文化施設に期待する役割（複数回答可）

市民が文化や芸術に親しむことができる場所

67%

質の高い文化芸術を鑑賞できる場所

60%

市民が文化や芸術の発表活動を行う場所

45%

名古屋の文化や芸術が創造され発信される場所

38%

市民としての誇りや愛着を感じることができる施設

37%

様々な人々が集まり地域の賑わいを創出している場所

32%

市内外からたくさんの人が訪れるスポット

28%

0% 20% 40% 60% 80%

名古屋市の文化施設に設置を期待する機能や設備（複数回答可）

鑑賞前後の時間を快適に過ごせ公演日以外にも利用
したくなる商業施設

60%

様々な催し等が行われる広場や市民の憩いの場となる
庭園などのフリースペース

38%

講座、研修、会議等ができる会議室

37%

ダンス、演劇、コーラス等ができる防音設備のある練習室

34%

市民としての誇りとなるような独創的で特徴のある外観

33%

市内外の様々な催しや公演の情報が得られるプレイガイド

31%

子どもと一緒にゆっくりと鑑賞ができる親子観覧席

31%

絵画、陶芸等の作品展示のためのギャラリースペース

29%

楽器や機材を備えたバンド練習などができるスタジオ

24%

0% 20% 40% 60% 80%

名古屋市の文化施設に行ってほしい活動（複数回答可）

人気の高い文化芸術等の鑑賞機会を増やしてほしい

47%

国内外の質の高い文化芸術の鑑賞機会を増やして
ほしい

41%

文化芸術に関する情報提供をもっと行ってほしい

39%

市民が気軽に集まり交流を深めることのできる場
を提供してほしい

38%

他では見られない名古屋独自の公演を行ってほしい

37%

まちづくりや教育、福祉など文化芸術以外の分野と
協力した活動を充実させてほしい

37%

子どもや高齢者・障がい者向け事業を充実してほしい

31%

文化芸術活動の発表の場として使いやすくしてほしい

26%

文化芸術活動の練習や準備の場として使いやすくして
ほしい

17%

文化芸術に関する相談・支援事業をもっと行って
ほしい

14%

外国人にもわかりやすい事業を充実してほしい

12%

0% 20% 40% 60%

4 市民会館の整備にかかる検討課題の整理

4 市民会館の整備にかかる検討課題の整理

(1) 市民会館の機能更新のあり方

整備手法について

課 題		大 規 模 改 修	移 転・又は 現 地 建 替
設 備 面	バリアフリー	躯体構造上、館内へのエレベーター等の増設は困難	設計段階からバリアフリー化を徹底することで、高齢者や身障者らを中心に快適性が大幅に向上
	給排水管	給排水管は躯体に埋設しており、原因究明や更新が困難	補修を想定したパイプスペースを確保することで緊急工事にも迅速に対応可能
	音響の課題	施設構造上、防振・防音機能の導入は困難	最新工法により音響環境が飛躍的に向上することで敬遠されていた一流演奏家の利用が期待できる
	トイレ数不足	躯体やスペースの問題で増設等が不可能	利用実態を踏まえたトイレ数や男女比が実現できるため来場者の鑑賞環境が向上
来 場 者 動 線		地下連絡通路や古沢公園駐車場から劇場への来場者動線のバリアフリー化は困難	駅や駐車場から劇場に向かう来場者動線の快適性が大幅に向上
工 事 休 館 (全 館)		約 3 年～ 4 年 (平成8年度の劣化状況調査による試算)	整備場所・手法により異なる
費 用 面		・設備の機能向上が見込めないため、利用料金の値上げが困難 ・不安要素が解消できないため、維持管理経費の低減が期待できない ・劇場としての基本機能が現在のニーズとかい離しているため、改修費に見合う評価が得られにくい	・機能が大幅に向上するため利用料金の値上げが可能 ・高額チケットの公演が増えるため利用料金収入の増収が期待できる ・長寿命化を前提に整備するため維持管理経費の低減効果が期待できる ・設計の自由度が高、民間活力の導入で整備費負担の軽減が期待できる

4 市民会館の整備にかかる検討課題の整理

(2) 他都市の類似施設の整備方針

直近15年に開業した公立のホール(1000席以上)
の整備理由

	整備理由	施設数	割合	平均利用期間
建替	老朽化	29	54.7%	46年
	耐震対策が困難	3	5.7%	48年
	その他	10	18.9%	48年
	不明	2	3.7%	39年
	新 規	9	17.0%	
	合 計	53	100.0%	46年

- ・ 建替整備をした劇場の半数以上が老朽化を理由にしている
- ・ 劇場の平均利用期間は46年（市民会館は開業後46年経過）
- ・ 劇場の法定耐用年数41年を目安に建替整備する傾向
- ・ 法定耐用年数41年を超える公立文化施設は全体の8%程度

開業後50年以上の公立のホール(1000席以上)
の整備状況

方 針	施設数	割合
大規模改修	28施設	50.9%
建替え中、又は建替え予定	14施設	25.5%
検討中、又は計画未定	7施設	12.7%
閉館、または実質上閉館	2施設	3.6%
未定	4施設	7.3%
合計	55施設	100.0%

- ・ 改修整備をした28施設のうち、7施設は著名な建築家の設計による歴史的建造物の保全、8施設が震災復興等の耐震対策を理由としているなど、特別の事情から改修整備を選択

※本市ヒアリング調査から作成